

復興税の必要性強調

フォーラムで五百旗頭氏

岡山



復興構想会議の五百旗頭議長の講演
などがあったフォーラム

東日本大震災後の政治の在り方について検証するフォーラム「3・11後の政治学と日本の政治」（日本政治学会、岡山県主催）が10日、岡山市内であり、復興構想会議の五百旗頭真議長（防衛

大学校長）が災害を軽減する「減災」や被災地を支える復興税の必要性を強調した。五百旗頭氏は、6月に菅直人前首相に答申した同会議の提言について、「まちづくりや経済、地震学などの専

門家に加え、民主党政権が排除した官僚の力も利用し、国民の意向を代弁するとともに国が実施可能なプランとした」と説明。

提言で速やかな検討を求めた臨時増税に関しては「連帯と分かち合いにより、今の世代が復興を支えるべき」とした。

国際医療ボランティアAMD A（本部・岡山市）の菅波茂代表や米口の研究者も講演。パネル討論では同県の石井正弘知事が、災害に備えて国の財源、権限を地方自治体に移譲するべきと訴えた。

8、9日に岡山大で

あった同学会の総会・研究大会に合わせて開き、約100人が参加した。（大島望）